

※ボイス数

セラ	1	7	4	ボイス
ジスニア	1	6	0	ボイス
アイシャ	2	9	1	ボイス
モブ×	6	キヤラ	6	ボイス
【合計】	5	1	9	(2 / 7 / 7 / 3 / 4 / 2 / 3 / 1)
※ウイル	2	5	ボイス	ボイス



【左..アイシャ 中央..セラ 右..ジスニア】

※ジスニアのみ旧ラフです※

-NTR 共通台本-

【収録メモ】次の文章のみ。モノローグでお願いします。

1-1

「（M）備 ウヘル・ターナーの胸に高鳴っている。
幼なじみのセント・紳士式を導く
る時をよみやへ迎えられたのだから——」

cha0001 4/11

「わあ……！ 真っ白な鳩があんなにたくさん！ 気持ちよさそうに空を飛んでいるわ……まるで私達をお祝いしてくれてるみたい」

「サプライズ演出、喜んでもらえたかな？」

cha0002 ヤラ

chall003 L7-11

「おめでとおー！ セラすつゞく騎獣よおー！」

cha0001 ハリ&ハーハイキナ (M0B) 「団長... ジョウジ おめでたー！」

1
2
3
4

「…………はうう…………」
…………アイシヤ シスニア…………戦士団のみんなも…………あは タメ…………泣いたやう…………くす」

cha0004 ウイル

cha0004 やハ

「ふくく、ハル。ぐすい……ぬせやれい、ふぐい……夢みたいで……私

cha0005 ウィル

「夢じやないよ、セラ。俺たちは今日夫婦になつたんだ。わあ、みんなの幸せを分けに行こう」

cha0002 ハヤシヤ

「ウイルうう… こつになつたの」いかに来ぬのね~。」

cha0006 ウィル

「ハルへ」あ、今行へからー。」

cha0003 ハヤシヤ

「ふうー。焦るし上手ーー。やハのハームが、やつやつ焦るしてたのねえー。」

cha0007 ウィル

「はい、ばか! 確かに、プロポーズおやせ時間がかかつたけえや」

cha0005 やハ

「式を挙がねいふを遅らせたのは私だつたからだ。……ハル君ね、ウィル」

cha0008 ウィル

「大したハルシやないよ。大丈夫。さあ、みんなのハルに行ひへ、やハ」

cha0006 やハ

「…………」

// 【収録メモ】 リリードセラ、ウィルが参列者の元へ合流します。

cha0002 ハベニト
「改めて、おめでたへ」れこます。セラ、ウィル」

cha0007 ハベニト
「ハベニト、ありがと」

cha0009 ウィル

「来てくれば良かったよ。ジスニア、最近このふじしみだいだがむせ」

「ああ、来ない
なんて選択肢があるわけ無いですよ、大好きな一人の、晴れの日なんですか？」

1-3

かたいかたおい！ なにもお 真面目なやつでえー！

cha0004 バスニア

卷之三

「や
な
い

cha0010 ウイル

4

cha0006 アイシヤ

「ほんたうが、おまかせください。」

cha0011 ウイル

chap 60009

「私は」の結末を予想してたわ……。んぐう……んんく、このシャンパン美味しいわね

cha0007 マイシヤ

いはい、ジスニアも！」

cha0005 ジベニア
「おおお私はお酒は苦手——」

cha0008 マイクヤ

いいからいいから」

cha0006 フルマ

八
八
八
八
八

cha0012 ハイル

cha0010 7/11

卷之三

cha0007 フルニア

[?...]

んな、グラス持つて~」

cha0013 ウイル

「俺のシャンパンシャワーは無かつた事になつたんだな……」

cha0010 アイシヤ

んぱあああいー！」

cha0008 フルニア

「か、かんぱあい……ふにやあ……」

cha0011 アイシヤ

cha0009 ジニア

「え、え、えええっ……！？」
アイシヤあああ！ 待つてくださいいい……！

cha0011 やハ

「あーあ、 困賣たちに絡みに行ひやうたね……」

cha0014 ハヤル

「ハヤタ、 こいつは匡じペターンだな。 ははは、 おいたぐ。 笑ひかやへへんこ俺達の」
「ハヤ」

cha0012 ヤハ

「ハハハ。 新しい時間がスタートしても、 私達はやいと変わらんねね」

cha0015 ハイル

「……ヤハ」

cha0013 ヤハ

「えへ、 何よ、 急に真面目な顔して」

cha0016 ハイル

「……俺、 必ずセリの事を幸せにするだ」

cha0014 ヤハ

「ハハウイル……。 …………うん。 ハヤカのは幼馴染じやなくして、 豊かして、 よいこ
くね……」

cha0017 ハヤル

「俺も、 夫として精一杯務めを果たすから。 ……せやべ、 父親じゆせんじやうじだ」

cha0015 ヤハ

「ハハ。 ハハハ……ハハ、 ね」

cha0018 ハヤル

「はは、 ちゅうと気が早かつたかな。 ……ハヤカの約束、 守り抜くいふが出来てよ
かいた」

cha0016 ヤハ

「ハハ、 ハハ……。 ありがとう、 ハイル」

【収録メモ】次の文章のみ。モノローグでお願いします。

「(M) 夫婦になったからいや、思いやうの気持ちを強く持たないと。どうか不安げな顔をするセラを見て、そう思つのだった」

// ▶ 【0102 ルック名】特別鍛錬部屋にて

【収録メモ】以下、モノローグでお願いします。

cha0010 ハベリト

「(M) 主戦の長クローバー——「」主人様が戦士団の捕獲役として町に来てから、私たちの周囲は少しずつ変化していくをあした」

cha0011 ハベリト

「(M) 私たちも含め、町で何がしのの権威をもつて、女達をその手練手管や骨抜きにして、影響力を強めていた」主人様は、町を自分の思い通りに作り替えていたのや」

cha0012 ハベリト

「(M) 表向きは変化がなによつて見えて、その裏では、確かに変わつていく。人も、場所も、雰囲気も……。戦士団はもと、その影響がめいじゆ色濃く出て、これまでのやしゅう」

8

cha0013 ハベリト

「(M) だつて私たち……戦士団を率いる者達が積極的に、(」主人様の望みを叶えたために尽力して、なのだから、当たり前がもしければせんだけね……あああ」

【収録メモ】以上、モノローグ終了です。

cha0014 ハベリト

「……特別鍛錬部屋、よつねへ完成といひかましたね」

cha0012 ハベリヤ

「(」主人様に壁尻部屋を作れりて、書ねれたとかせえいがねいふかと思ひたけれど、案外なんとかなるものねえ」

cha0015 ハベリト

「苦労の甲斐あつて、良い部屋になりました。因員たわがお尻を突き出す姿……早くみたこや」

cha0017 4/11

「ねえ、やつぱりやめにしない……？」

cha0013 アイシヤ

「あー、またあー？」今まで来てやめられないわよお

cha0016 バスニア

「何度も言つたように、『主人様のことだから』といつても、団員の子たちの為でもあるんだよ。

cha0018 4/11

「分かつてはいるのよ……分かつては……」

cha0014 ムーラ

「大丈夫だから、ね？」 ほら、みんな外で待ってるわよ。はやく号令をかけて？」

cha0019 ፲፻፲፻

「……ええ。……入つてこい！」

…?
など

cha0020 ۱۱۱

「静かに！ 今日はみんなに特別鍛錬をもらつ！ 苦境に立たされた時、戦況が変わるまで耐え抜く力が無い者は真なる戦士とは言えない！」

卷之三

らなる高みに至らんとする特別鍛錬である!!

00001 フイオナ (M0B) 「団長……あ、あの……えりと……その……」

アミコ（アミコ）「ハイオナ。」「な私が……」

cha0022 ヤハ

「何だハイオナトアリは」の特別鍛錬が不服か?」

cha0002 ハリ (ゼロゼ)

「ハハ……、その、不服といつ訳ではないのですか……。」の恥ずかしい格好になにか意味はあるのでしょうか……?」

// 【収録メモ】あるわよ以降、思わずボソリと小さな声で呟く感じです。

cha0023 ヤハ

「意味……? ハ、ええ、わからん、あるねよ……。意味なんて壁尻する以外に――」

cha0017 ハハリト

「私からの説明しましょ。戦況は常に変化し、想定通りの戦場がいつもあらぬは限りません。困難な事態に直面し、前に進めなくなつた時でも、戦士として戦い抜けるようになりますための特別鍛錬ですよ」

cha0003 ハリ (ゼロゼ)

「ハ、しか、ハヘンね、お尻丸出しな戦場ひてあり得るのでしょうか……」

10

cha0018 ハハリト

「ハリヤハ、私達の戦いを思ひ出してくだせ。不運の輩との戦いであれば、大いにありますよ」

cha0015 ハイシャ

「そつそつ。隊列を組んで突撃いつぱかりが私達の戦いじやないもの。苦境に立たされた時でも、あなた達がちやあんと帰つて来らねよつてあげたいのよおへ

cha0024 ヤハ

「ハ、やつだ! 強い戦士、強い女は一見突拍子もない鍛錬でも、卒なくしなつて見せるものだ! 私はそれが出来ないような軟弱な女を」の戦士団に入れたつもりはないぞ!」

cha0019 ハハリト

「ハハハ……おやは安全の為、全員」のおへすつを受け取つて飲むんですよ。飲み終わつたら順番に上半身を壁の穴に入れてくだせ!」

cha0025 やハ

「やト……シのトトの壁がおもつかー。……」

cha0020 ハベリト

「私はヨーヨーとおもつか。小振りでモモ締めいたお尻が呼んで、ぬくもりのや」

cha0026 やハ

「私は、ハイオナを庇いて質問をしたアリ。罰の意味はないけど、田に付いちやつた

わの」

cha0016 ハベリヤ

「おのあれ、やういたの腰が腰がんばー」

cha0027 やハ

「やんなんやなこいよ。やべこつアイシヤは誰にやるの。」

cha0017 ハベリヤ

「やつねー、ハイオナちゃんのモモが締めいたお尻なんかグシと来ゆやつねー。
ほんほん見て。かほいふ震がわやいよなあ……。へんて、可愛がいのやつねよ

おー」

cha0028 ハハ

「アイシヤも大概意地悪いやなこ……」

cha0018 アイシヤ

「選んだ理由ヒコヒコジスリトあまつ變わのなこへ田へたえねー。」

cha0021 ハベリト

「みんな準備ができたみたいですよ。ああ……壁にお尻が並んだ光景はなかなかにクル
わのがありますね」

cha0019 ハベリヤ

「ハーン、」主人様が作れる壁のモモ締めよねー。お尻だけ見ても、こんなに差が
あるなんて知らないがいたわねー。ぐくくいのやーーー」

cha0029 4/11

「さあさあ、感想はそれくらいにして私達も準備よ」

cha0020 ルイ・ヤ

「あつ、この双頭ペニスバンド、懷かしいわあ。ジスニアにお尻の穴を熱烈に責めら
れてえ、私失神しちやつたのよねえ〜」

卷之三

でした……」

卷之三

chawoo30 千川

SCOTT

「んはあ……着剣、しました……」

卷之三

——さあ……いくぞ！ 練習開始だ！ 突撃！！

cha0023 アイシャ

「フイオナちゃん、動いちやだめだからねえ……んつ……しょ」

cha0002 ハイナリ (MOB)

驚きにしないでください……」「……

cha0024 アイシヤ

「ほん、フィオナちゃんのおマンコ、もうぐちよぐちよじやない。おくすりの効果バツチリね。それじゃあ早速……入れてあ・げ・る。それえく」

cha0025 ハヤシヤ

「。こんなにピッヂ広がって……でも、頑張って座え、こんでて偉いわねえ」

chancery

✓

cha0024

すよ」

「……ジスニアあん……」

cha0025 二八二

でしよう……。こんな調子では、敵の術中にハマってしまいますね」「…………

cha0026 二二八

「おまんこの一番奥まで一気に入れちゃいます しきかり貰えるんですよ……ん？」

1

cha0027

「ああ……そうですよ。快感に襲われたとしても、簡単に屈してはいけません。さあ！じつへりねうとりと攻めてあげますからね……ん、んんっ……」

cha0032 ۴۱

……アニ、まだ何もしていないので膝がガクガクしてるわよ。まるで生まれたての子

鹿ね

cha0004 11 (MOB)

「あつ……あ……団長……わたし……身体が……おかしいんですう……！」

cha0033 47

「…………あんっ！」
「ぐすりの効果に翻弄されるたんて
情けないわよ。私が銷え直してあげる
いくぞ

「実戦だから」と過酷で容赦ないんだぞ!! やい いい……ん!! そん!! しかし つかり体を支えるんだー。一瞬の油断も、命取りにならんだけ。はあー、うー、あー うー。」

cha0027 ハヤシ

「ああっ……セラ、いきなりそんなに速いピストンしてえっ……。アニちゃんのお汁が、あふうんっ……びしゃびしゃ垂れちゃってるじゃないのっ……」

cha0028 二二八

cha0036 ۷۱

かり立てつ！ んつ、尻を突き出せ！ はね除けるくらいの心構えをしろつ！

cha0028 ハイシャ

「えい、ああい……せりいたる、ああやうに自分を鼓舞してなーん、せーん……快

樂に呑おねがやうのね」

cha0029 ハベリト

「ハベベ……ハベヒ……」の鍛錬が「主人様の言ひなりだといつ事にしたくな」のやしは

「……さい、ハヒ……」

cha0029 ハイシャ

「ウイルと結婚したし、今までみたいたは行かないハルンがハ。ウイルをもう悲しませな」、ウイルのためだけに生きるハ、「主人様の關係も見直したみたいだしああでも、若い心の落山」ハ、ハは呪ひかねやもね」

cha0004 ハイホナ (モロ)

「あ……ハイシャやあそ……ねいふ……ああ……かいふくがハ……。欲しいんじやうの……出ぬわや……やどう……せあへハ……」

15

cha0030 ハイシャ

「ああい、ハイオナちゃんの可愛いお尻、放いたらがしごひたわ。今はあなたのお尻しげかり可愛がりてあがなへかや……それ、あい、えい、えい……あ、あい……」

cha0031 ハイシャ

「おねいこんハクのおおいのせ……」ハゲハジだくわやなやしてあがねハハ……あ、えい、かうに縋ぬ付かなかがはねのトハヌキのあい……」

cha0032 ハイシャ

「えい、ハヒ……腰を打た付かぬたる……あ、ああ私の體内の棒の……んい、んい……ぐるぐるおねがやうつう……えい、あ、ああ……えい、ハヒ……んああ」

cha0030 ハベリト

「ハイシャつたら……自分までやから感じかやうじやなこじやかあ……」ハねじや、鍛錬の意味がありませんよおい……ふ、あひ……」

cha0031 ハベリト 「あ、ああい……だめい……私わい、ああい……我慢やがたひてもがした……はい
へ、せい……せい、せいー」

cha0032 ハベリト

「腰をぐらぐらい……角度を変えて黒いいたい」わがわがわい、んい、あわわわわいとい
……。ああい、「ハコハコ」わがわいやこがわいわい……あ、あああい……氣持わいこい
……」

cha0003 ルー（モロ）

「ハベリトわがい……あ、んこわいだめだかい……私のわい」立がのわやこわわわ
（うー）

cha0033 ハベリト

「ああい……あいい」わいじやかわい……あいわい……おまんじやすがあい。ヨー
へんてのぐわのねぐわねねがえいドヤねい。ん、あ、ああい、あ、あああいー」

cha0037 ヤハ

「ムムイムイ……トイシヤウハベリトわい……回みいのむい……」ルー……仕
方がない、一氣にたたみかわるー。あ、あ、あ、ああ、んい、んい、くわん
（ー）

cha0038 ヤハ

「ふー、あ、んぐああああああああああああああああああい……」

cha0033 ハヤハヤ

「はあ……はあん……ああ……はあ……。」わがわい、なかなか……クヤになりやうよ
ね……こ、あ……」

cha0034 ハベリト

「ハベリト……こ、鍛錬ですね……はあ……ん……他の子達も、樂しみやうへおもへやす
……」

cha0039 ヤハ

「ええい……あ……はあ……私達も、まだ甘いね……ぐ……！ 次こそは、最後
まで強く氣高くこなへりや。……よし、鍛錬を続ける！ 次に誰が尻を差し出さんだ！
突いて突いて突きおもへるねー！」

cha0034 ハヤシヤ

「ハハハ……セツいたる。すりかり火が付いたやつたわね」

cha0035 ハハニハ

「ハハ。心の落とし場所……おへ尻のわやつたみたいですね」

cha0040 ヤハ

「やあこへやいー。構えて……突撃いー」

cha0020 ウィル

「やハ、 もへぬみいひいわにねこビ」

cha0041 やハ

「え… うん…。あ、 うん。 ウィルに抱かしめられて、 安心する…」

cha0021 ウィル

「やねは良かった。 セラ、 我は小ちこ頃から、 やハの一人で静かな毎日を一緒に度」
未来を、 夢見てたんだ」

cha0022 ウィル

「やして俺はね、 夢が叶ったんだよ。 やハの想いは一度だいに無くした」
いし、 大好きなセラとお互の温もりを感じて睡る…」

cha0023 ウィル

「……そんな幸せな夢が叶ったんだ。 幸せ、 だなあ、 やわああ」

cha0042 やハ

「やべ、 あぐらが悪かいたひ一〇時だいたの」

cha0024 ウィル

「俺は、 セラと、 家族に、 なりたかったんだ…」

cha0043 やハ

「……あね、 ウィル… ウィル…」

cha0044 やハ

「あいふらう間に寝ちゃいた。 全く、 ウィルのため、 腹足やうな寝顔してねえだ。 ……
私は、 まだ… なのに、 な」

// 【収録メモ】次の文章のみ。モノローグでお願いします。

cha0045 やハ

「(M) 結婚式を挙げてから、毎晩ウイルに求められるようになった。ウイルとの喰みは……正直、物足りない。事を終えウイルが眠ったあと、ひたすら自分を慰める日々を送っていた」

cha0046 やハ

「あ……あやハ……んんハ……あ、あ、ああ……んハ……」

cha0047 やハ

「はあ、ああ……自分の指一本じゃ足りないわ……2本……ハハハ、もひも、もひと太いの……太いのが、欲しい……ああ、私ひたのハハハやったの……ひ……あ、あひ…

…」

// 【収録メモ】次の文章のみ。モノローグでお願いします。

cha0048 やハ

「(M) ウイルに愛されたのはひいても幸せ……それは間違いない。でも、きのとウイルの愛し方は優しくない。私は……ぬいぐ、体の奥が痺れるような快楽を知っているかハハ……」

cha0049 やハ

「えい、えあい、あい、あい、あ、ああ……ハハハハハハ……クローズ……クローズのおひんぱでイクのおね……ひー、んんハんんん……」

cha0050 やハ

「はあい……えい、あや……ハハ……はあ……はあ……ああ……ああ……ハハ、でしょ……私……ハハハハハ、あの人の名前を……」

cha0051 やハ

「ウイル……。ハハ……私……ダメよね、いろんなの……」めんね、ウイル。『めんなぞい……』

// 【収録メモ】次の文章のみ。モノローグでお願いします。

cha0052 やハ

「既に私は、アイシヤンジスニアの元に相談へと向かった。私は、やたらに心地のいい返答をやるやんとするのだから……」

cha0036 ジベリト

「…………、折り入つての話って何でしょ？』

cha0035 ハイシャ

「私達ふたり以外には聞かれたくない話、かしづかへ？」

cha0033 やハ

「ふうなの……。実は、その……夜ね、ウイルと……してね……」

cha0036 ハイシャ

「あーあー、はー。誰がどういふんかいわあー」

cha0037 ハイシャ

「既この外早かつたですね」

cha0054 やハ

「ハ……エハニハルム。」

cha0037 ハイシャ

「だいじ、ねえ……。あんなに気持ちいい幸せなのを知った後にい、普通のエツ

チで満足できる訳がないわよねー」

cha0038 ジベリト

「ハ主人様は並大抵のつまやぢせありますか？』。セラが夫婦生活で悩むときは、ずっと前からアイシャと予測しておもした」

cha0055 やハ

「はあ……ハハ。一人には、いつまでも見通しだった訳だ」

cha0039 ハベリト
「このルイ主人様に抱かれるのはかがですか？　あいつ間に満足できるかと思ひ
ますよ」

cha0056 ヤハ
「それは、ダメよ！　ウイルを裏切るんじゃないでしょ？」

cha0038 ハイシャ

「へへへ……じゃあ我慢するしかないねえ……。ああきつとウイルだい、じきにう
まへなるわよ。あの子、頑張り屋なんだからね」

cha0040 ハベリト

「ええ……。こへる頑張りで、ウイルは！」主人様には到底かなわないかと」

cha0039 ハイシャ

「それはもうやんないよ。」主人様と同じレベルになら」とは無理でも、あんな程度は
こちるねよいで意味」

cha0041 ハベリト

「なんだ、やうこつ！」ひだしたか」

21

cha0057 ヤハ

「ああん、セラが怖い田で私を睨んでこねわあ～」

cha0040 ハイシャ

「えもん……。……やめ、なんだか、恥ずやい」とが馬鹿のこになってしまったわ。い
つもと変わらぬ一人といふ、元気が湧いてきたかわ」

cha0042 ハベリト

「それは良かったです。万事うまくいくのは少ないですが、楽しい」ふを糧にちょ
いとやい、ですよ」

cha0059 ヤハ

「ハハハ……やれ、なにかの受け壳つドレム」

cha0043 ハハハ

「ハハハ、今読んでもこの本に書いてありました」

cha0060 ヤハ

「血口説発本が好きなのもあこがねのやがなのね。……でも、本当にやの通りかわ。新

婚生活は、夜だけじゃないものだー」

cha0041 ハヤシヤ

「ハハハ。あー、我慢できなくなつたひ、私が気持ちよくなつたのよー」

cha0061 ヤハ

「ハヤシヤいたひ……せいかくこい感じで納得したのよ。さあ……こいつはやめながれ
離れるのよ、离れるのよー」

cha0042 ハヤシヤ

「ハハハ。それが私たのなのよー」

cha0062 ヤハ

「ハハハ、ハハハ」

cha0063 やハ

「ハハハヤー。今日の居残り鍛錬はハハハヤ。明日ハハの調子なら、わいと厳しくす

ねえよ」

cha0065 ハヤオナ (M0B) 「あ、あらがハハハヤ。お、おおがハハハヤも出した……ハハ……」

cha0044 ハハハハ

「ハハ。今のは指導、あんなに厳しくしなくてお世かいたのでは——」

cha0064 やハ

「口を封むなこヤー。……ハハ、ハハハハハハ、ハハハハ……私……」

cha0045 ハハハハ

「大丈夫だ。止分けは私がやつしゆががのド、ハハは先に執務室へ戻りて休んでい

てください」

cha0065 やハ

「……ハハハハハハハハ」

// 【収録メモ】以下、モノローグでお願いします。

cha0066 やハ

「(M) アイシヤヒヌニアに相談をしたにもかかわらず、欲求不満になつてハハ

日々。最近では、そのハハハハをヒルのかまねやうにかねやうになつてしまつた」

cha0067 やハ

「(M) 戦士団の女子の子、ジヌニア……ヒルやウイルはおでつへへへ當たいへん。そんな自分に罪悪感が募つて、むしゃへしゃへつたあひなし。足早に執務室に戻るが、机の前で大きくなめ息をつこつこつまつた」

// 【収録メモ】以上、モノローグ終了です。

cha0068 やハ

「はあ…………ん。 テイセシトと一緒に……メサ? 何がしら……?」

cha0069 やハ

「良いカモミールティが手に入ったから、お裾分けよ。」それでも飲んでゆくからして
ね、アイシャ——つて、……アイシャにも随分と気を使わせてしまってゐるね」

cha0070 やハ

「それもいれも……うう……あの人に……抱かれてながから……あおむつ……。 私、
どうつらやいたのよ」

cha0071 やハ

「あ……あ……あれ……。 手が勝手に……はあ……あは……う、ん!……ヒシチな」
ルーフのやつ……はあ、うつうつ……こやあ!……」

cha0072 やハ

「はあ……ん、んうあ!……痺れるよつた……身の心の満足であらんヤシクス……したい
……ん!、ああ!……あの人なり……クローバー!」の身体を満足させてくれるのは
チチなの……あん!……クローバー!……」

// 【収録メモ】クローズが入ってくる。

cha0073 やハ

「へ、ああ!……クローズ!……ー? なんドリ!リ!……ー? ぐ、別にあなたの事な
んが呼んでなこね……。右手? あ……!れば……その、昨日のウイルとヒシチした事
を思い出す!……」

cha0074 やハ

「へ、嘘じやないねよ! ウイルは優しい、かやんと、満足だ!……」

cha0075 やハ

「前はあなたに沢山犯されて、それは、気持がよがつたけ!……ども、今はもう違うの
よ。……だつて私はウイルと結婚したし……ウイルとの約束を守るな」といひなごの…
…だから、ね? クローズ。お願ひ……」

cha0076 やハ

「お願ひだから田へこいとへるがしの……」

cha0077 やハ

「……あい。な、なんぞズボンに手を、かけ……し……ダメよ。そんなの見せつけたつて、私には、ウイルが……。ビンビンに勃起させたつて、ダメなものはダメよ……。早くこまいて、執務室からの田へこいとー。」

【収録メモ】以下、モノローグでお願いします。

cha0078 やハ

「(Σ) ハヤリヤしながハ、見せつけられよつて自分のモノを上トにこやのしへ扱く。その姿から、目が離せない……思ひ出クリと生睡を飲み込んでしまハ」

cha0079 やハ

「(Σ) 先いはからぬじなく我慢汁があふれてもいい。オスの匂いが鼻について、子宮がきゅんきゅん疼いてしてしまハ」

cha0080 やハ

「(Σ) あんなモノで奥を突かれたら、それだけでいつこまうそう。ああ、入れて欲しこ……今、あなたが私を襲ってくれたら何も考えなくて済むのに……」

【収録メモ】以上、モノローグ終了です。

cha0081 やハ

「あ、えへ、おいはこで……せれゐはここへ、そつね……セックスじやなければ……いふ……のかしり……。そへ、おいはこなひセックスじやないもの。約束を違えたハルには、きのふ……なの、なこねね、べべべべべべ」

cha0082 やハ

「え……はあ、あ……。ナハ」へ熱べつおいはいが火傷したやうやう……」

cha0083 ャル

ん～ん～んあ～んはあ～お～ほいの中でピクピクしてゐるわ～ふあ～

あんぐ……と
どうかしら? 稲のおこぼしはんぐんぐんあはんぐ

cha0084 4/11

「あ、ふふ、ビクビクつて返事……あふ……してるう……んう、んう、んふう……おつぱいから出てる先っぽが、あふ……ふう……んんつ、寂しそう……くうう……れうれう」

1

cha0085 471

「んん？ 不思議 そんな顔をしてるわね……？ 口でしていいのかって？ ああ……そ
うね、あの時は、口は守り抜くって約束だったけど、今は違うもの」

「だから、何も不思議じやないでしょ。ん、はああつ……先走りが、れろ、んはあ……
しょいばくで、美味しい……んちゅ……ぐるれるれる……んふあ……わうふ、わうと
ちよふだい……あむう……ん……んぱう……じゅふい」

cha0087 7/11

cha0088 ፲፻

cha0089 114

「えぐ……うへい……うへい……ふはあ……濃くてオス臭くて……それが」「んなに……んく……たぐわえ……えやああ……」

cha0090 やハ

「ふへへ……あくまでもあなたは何もしないトコツのね……あく……いれじやめねど、
ん……私があなたでオナリードン、ふ……みたゞ……」

cha0091 やハ

「……はい… やつよ。オナリ一をやれは虫いんだわ。そつ、リおはオナリ一のよ…
…だから、ハの棒を使ひてオナリードム……シ、のよが……」

cha0092 やハ

「ふふ、なんの……いふ……迷う必要なんぞ……あは、んの……なー……はあ、ん……わ
わ、あははははなはいとしまふんの……ああわつひ、ペハシを脇ぐのゆかはしがね……
へー、えいしょ……ああ、咲く……はやべへ……」

cha0093 やハ

「えへ……あ、えふ……あお上手く入るが、ふふふふ……へー、ああん、邊うねね。ハ
れは騎乗位セシクスじや、だなこゆのねい……うつらんの……わふらですか、オナリ一
なの……」

cha0094 やハ

「さああああんいーーー、あい、ああい……こいわんこ……あん、奥おじええ……のはあ
……入れただけで、えふ……イシかやー、たあ……」

cha0095 やハ

「あへ……えへ、えふ……奥おじええたわふいの、えんいー、ハの感じこ……ん
へ、あんい……」

cha0096 やハ

「えい、えい、ハッんいー、はあい、ハズダダム、えふあいー、ああいー、あんいー、
……ふふ、満足出来なこものね……んああいー、はああんいー」

「あんいー、ああい、あたい、イシカニヤシヤ……へへへー、モヒン、おおそりにほー
かいたのねい、はああああんいー、ルネがなーと、私、あああんいー、へへへへー。
ねたし、ねいだめなのおねいー。」

chaos 71

cha0100 千川

「ああっ！ ああっ！ やあん、どめはああ！ どめてえい！ 」これは、んくうっ！
オナニーなんだからああっ！ ふくふく、あんんっ！ イキつばなしゃえ、んぐ、ふあ
ああっ！ ダメよ動いちゃ、あああんんっ！」

cha0103 ፲፻

cha0106 ๑๗๖

…………やだつ…………やだあ…………とあちやつ、ダメええ…………

cha0107 ፲፻፲፻

「んんううう、自分から、動いちやうからう……うふふ、うふふふ……ん、
ふ、うふううう……オナニー、続けちゃうのう……私、んうああう……自分でパンパ
ンしゃうのう……」

cha0108 ໜ້າ

「ひー、あ、あ、あああっ！ 見てつ私の動きひいっ！ しゃ（）ぐでしょっ……あなた
みたいに、腰振つてるのよおおつ、あ、あ、あ、つ……イクつ、イクつうううううう
あああああっ……！ ひあああああっ！」

cha0109 4/11

「……中田しやな」「……わわわ……わわわ……わやあああん……」

cha0110 やハ

「ああい…… やハ」
「あんい…… んああい……ああい……へやハ…… 猫のんば
オナリ一……わわわ……」

cha0111 やハ

「ああ……私……はあ……わハ……今、満たわねハル……わハ、 んい、 わらハ……な、
なに……ハロハロ顔を見て……」

cha0112 やハ

「何も隠いなこのはやねこじやなこ……こ……全部全部私に決まやか」
「あ……全部全部
部私に押しつけ……わ」
「あなたに少しどの戀想の心があののたむ……私を嘘うそに
やせなこで」

cha0113 やハ

「お願いよ……私は、 約束を守つた」
「快樂で心を壊したくなこのよ……だが」
「セックスはしてない……あなたを使つたオナリ一なのよ……ね」

cha0114 やハ

「……あらがふハ……。 あた……貸して……欲しい……オナリ一のための、 あなたの
棒を……わわわ……」

cha0043 ハイシヤ 「…………はあ」

1-3312 ヴィニ

珍しいですね アイシヤかため息なんて

cha0044 マイシヤ

卷之三

「でしょお！？ 少し前まではあんなに熱烈に愛してくれてたのにい……！ んんん
へ、もう我慢の限界だわ！ 今日はとつちめてやるんだからあ！ 徹底的におしおきし
てあげちゃう！」

かくして、かやんと愛してくればいいと怖いというふうに思って、かくして、主人様に教えられました。

cha0046 マイナス

cha0049 七八

۱۵۰

「わかったわあ。んんっ……わあ、ぐうぐうしてきてねやべりねないふ……」

cha0050 フルニア

cha0048 ハイシャ

「ハハ、吉報を待つてね～」

// 【収録メモ】編集時に間。

cha0049 ハイシャ

「今日の仕事は全部終わってね」、「主人様は呼び出したし、明日の準備も完璧い。うん。」
「何一つ難いことも無く……」

cha0050 ハイシャ

「折角だからサンダルウッドのオイルなんか買つてもよか」——はい……違う違う。今日だけは主人様をいつてり絞るのもつなんだから」「

cha0051 ハイシャ

「どうもいいて攻めるのがいいかしらね……普通に押し倒してね」主人様が悦んでだけだ

けだし……

cha0052 ハイシャ

「焦る」フレイは良かれも悪しからずだけ、私がガマンしたのが不安だわあ……だいて……
今も待つてたのだけ、じいふつわぬやつねしへ

cha0053 ハイシャ

「あい、来たみたい。不機嫌顔、不機嫌顔、うん。よ」

cha0054 ハイシャ

「……何の用だ、じゃないわ。呼びだした理由、分かるわよねえ？　私が、じんな思い
でハハハ」
「せんべい喰いしてたか……」

cha0055 ハイシャ

「……や、服を脱いで……話はそれから」

cha0056 ハイシャ

「ん。私は服脱がないわよ。脱ぐ必要がないやしね。あ、ほんとになんのい
ふだか分からなくて顔してるねねえ……なに迷うね～。」

cha0057 ハヤシヤ 「おはよう主人様。随分と団員の子たちや町の子たちより熱心のようだねえ……最近私のハルの愛してやれる頻度、減っちゃったんじゃない？」

cha0058 アイシャ 「別に私を一番の女にして欲しいだなんて間わないけど……。でもやいぱり、放つたらかしこもれたの嫌だわ……」

cha0059 アイシャ 「な・の・で。今日は私を放つたらかしこしたお仕置をやつやつ。あ、動いちやダメよ……おまはおまんばから苦ぬわやつねよ」

cha0060 ハヤシヤ 「やややおじこつゆみたこなガチガチじやなく、おじやんこやおかえほね。優しく握りて……ハロ、ハロ……。あ、むくむく大きくなつてやれたあ。何度も見ても不思議よねえ……先っぽも、ハジハジ……」

// 【収録メモ】口の中に唾液をためて、ぐにスに唾液を垂らしています

cha0061 アイシャ

「壁、たのやねねや……んえうう……じきねい、あねうう、おぐおぐ……んれえ……んふ、ニチャニチャエツチな音がしてやね……ハロハロ……えああ、強く握つてほし〜？だあめ」

cha0062 アイシャ

「ごいめい!主人様が好き放題揉んでくるおひさま、今日は私がおまんぱシコシコしながら弄ねねねね……えい……ああ……ほやほや、おねづみみみ。つやや」

cha0063 ハヤシヤ

「あん、だめよやへ触いちや。お仕置をこなのなこやしほお〜。」の悪い手は抓つちやうんだがん……えい。つやや。大好きなおひさまが、思い通りにならなくて辛いいふ。」

cha0064 アイシヤ

……好きに揉んで、あん、感じてるんだからあ～……ふああん」

cha0065 アイシヤ

だんだんシコシコが早くなつてきてるわよお~「

卷之三

cha0067 アイシヤ

「わあ、わあ、んふう……吸つたり舌先で転がすだけでピクピク身体が動いちゃ
ってるわよお~?」

cha00638 アイシヤ

支那の歴史

「あは、おちんぽビクビクしてるう……おほいおれるのも好きだけど、おれるのも好きみたいねえ。んちゅ、ふふっ、シコシコ……れられり、ちゅぱ、ちゅぱん！」

1 - 3000

ちゅぱつ、んふ、切なそうな顔、ゾクゾクしちやうわあ……はあん……れろれろ、れろ
ああ、おちんほ反り返つて来てるう……そろそろイキそうなのね……んぢゅうハ……

۲۷۷

cha0071 ハヤシヤ

「呪のねだへなこがひいと、だぬよお、わいせ回こわやお……のうい……だ、わいぶ呪せ
せトヤ……。おれのよ、強く握つてこのよせんハロハロしたる、ぶひたた顔、わいぶ見せ
て／＼おねねおねね／＼」

cha0072 ハヤシヤ

「えい、はあ、せねる、ハロハロ、ハロシシルシ、せん、乳首腫るいやんだかの…
…あんねい……。おはい、だらしなくお口開いたわやいと……おおだのねえ……んい……
んやうい」

cha0073 ハヤシヤ

「ハロハロ耳へないトヤレ、我慢やれどもやつねバ……ゆうだぬ。 ゆうだぬそつ。
えい、えい、あねい、ちゅうちゅうトヤルのねバ……こひせに精しつえ！ んい、ん
へ、えい、えい、えい……」

cha0074 ハヤシヤ

「ああいー や、あ、あああああえい……。 井の田ドジクムクレ、熱い精液が
こひせこひせぬあ……」

cha0075 ハヤシヤ

「こひせぬい、かかう……おねが……くく……」くく……くはあ、今田の濃くて美味い
……くく、わきわきおは……くく……くくのく……くはあ」

cha0076 ハヤシヤ

「今度は、おれのよせ綺麗にしておけぬ……おお……おおい……おおい、こひせの……ん
へ、えい、えよよ……」

cha0077 ハヤシヤ

「ええい……えせい、はあ……裏筋が、わやんと綺麗に……おのれ……んんわん
へー」

cha0078 アイシャ

「わやんわやんぽの中の、精液、も、押し出し、て……んしょ……あは、まだ、ん
なに残ってたわあ。お残ししたら、もったいないわ……れろ……わよぱい……んぐぐ」

cha0079 アイシャ

「はい、キレイになったわあ。うわわん、わすが！」主人様。まだまだビンビンのまま
——えいー、わやん！——」

cha0080 アイシャ

「いたた……むううう、突き飛ばしたわねえ。今日はお仕置きなんだけ！」……ふう、そ
んな低い喰り声みたいた声で脅したつて……だめ……なんだから……」

cha0081 アイシャ

「ああー、そんなに乱暴に服を脱がせちゃダメよ、破れちゃつたじゃない……ええ?
！」の下着は……その……！」主人様のために……選んで、エッチな下着をつけて……あの
つ、誘惑したら……うう、私の方を、向いてくれるかなあつて……思つて……」

35

cha0082 アイシャ

「下着に開いた穴は……えと、！」主人様が……くじらを入れられる為の穴で……
そのお……やだ恥ずかしいわ……」

cha0083 アイシャ

「！」の方が私らしい。エッチな私でいたら、いいぱいしてくわぬ。ああ……は
あん……私が間違っていたのね……！」主人様に迷ひつなんて……」

cha0084 アイシャ

「……お仕置き。うううね……私は！」主人様にお仕置きして、わなわなくわやうけない
わ……。正常位も好きだけど、いつものバックで……奥まで貫いてほしいのね……
…」

cha0085 アイシャ

「ううう、じいちでも良いわ……！」主人様の物だつてシルシをたづくわん付けてええ…
…ふああああんん！」

cha0086 ハヤシヤ

「おらこい……あ、ああ……こわだり……奥あだれ……か！」おこ……あゆみ、んい…
……」

cha0087 ハヤシヤ

「あい、やのHシキヤギハギラした田……私の知ひなし快樂を教えてくわぬ田……あは
あ、好きい……あら、ん……ね……、動じてくれな」のね……」

cha0088 ハヤシヤ

「んんうう、ふ、ああい……、あたああい……いだ、いれなおい……あ、んん
へ、ふ、ううああい……壁内いわねい、ひああいああい……」

cha0089 ハヤシヤ

「はあああい……」主人のおねいさんねい、あい、あい、ううい……入り口が
ふ、んん、一番奥まで、何度も、コシコシねねね……わ、いああいんい……」

cha0090 ハヤシヤ

「はああああい、気持ちいい……あんん、あい、主人のお仕置も、あもち
いこよおねねね……おや入口が悦んでねうう、んせああい、んああい……」

cha0091 ハヤシヤ

「うふうう、やんのあい……ねいせこあや断られたああい……ん、んん、我慢
でもなく、なうかやべへへ……」

cha0092 ハヤシヤ

「あ、あ、ああい……ん、ふあい、ひああい……ん、ん、うううう……んあい……
はやうい、ふ、うううあああんい……」

cha0093 ハヤシヤ

「あ、あ、ああああああああああんい……」
あ、あ、ああああああああああんい……」

cha0095

ああ、ふ、ひあああ……、息、すえな、い……、じ、じ、い、……、」

cha0096 アイ・ア

「…………」

「んくくく、ひこんひー、おじひトイケルおめりひー……か、ハハハ……。あおひ……
ひやああひ……あ、あああ……」

「うあああ、やがふ……。やが、いのるのお、はあん……だこしやがい……。」

エイント

「あんい、んおうい……ちゅび、んあい……んしゃりわのあい、じゅぬい、んおあ
い、はあい……はあい……そぐうい……んはああい……ゆうめ、ねねえほめい……お
い、こよおねい……あんい、んああい……」

cha0102 アイシヤ

んんあああつ…………二
「…………」しゅうじんが井もおおつ、いつてえつ…………中出一してえ

えつ……！」

卷之三

cha0104 ۲۱۰

せーしゃるのせい……せあい……そべり、じょくじょくい、なかにいこい……

人言之言人也

cha0105 ۱۰۰۴

「まあ……まあ……あなたにはかなひません……まあ……まあ……」

「ねえ……ねえ……ねえ、ねえ、ねえ、ねえ……」お母さんの声のね……ために……ね

卷之三

「ねのわはあ……！」」」おじこやがのわはあ……おわんはだこやわなあ……おわんはだこやわなあ……おわんはだこやわなあ……おわんはだこやわなあ……」

【収録メモ】以下、モノローグでお願いします。

cha0051

（M）「主人様が他の女の子にかまけて相手をしてくれなくなり
た夜な路地裏へ行き、オナニーを繰り返していた」

cha0052 ジヌニア

（M）町の男達に、見せびらかすように一人乱れまくる。見られている感覚は、私を高ぶらせてくれるのだった」

【収録メモ】以上、モノローグ終了です。

da0053 デスクニア
「んああうう……さすがに3回目となると、始める前からチラチラと男の人達の目線を

感じます……。今日もじっくり見て、興奮……させでくださいね……」

daa0054 ジスニア
「ん……あつ……ふう、ん……あん……あつ……もういくつもの視線が……あん、私
に集まっています……ああ、私の痴態を……んぐ、見てくださいいい……」

「ほんにだらしなく服を……んああ……はだけで……はあん……」んな、んぐう……
路地裏で……ふああ……「主人様に内緒で……、ふうん……」んな事……」

「ちやく……ええ……えへへ……おう……ええ……ああ……ええ……ええ……」

cha0057 フルニア

cha0058 ๖๘๑๙

.....

cha0059 二二八

すくす

cha0060 二二八

満足したので帰ります。なので何もしませんよ？ それぞれでなんとかしてください。

cha0061 ジスニア

「それではまた……きやあつ！」

「もう……皆さん腕なんて握んで……乱暴なんですから……悪い子達です。そんなに

cha0063 ๖๘๑๙

「あんまり毒舌性のない人だから、だからしておけば、自由に使ってください。ただし、痛いことはダメです。約束、できますか?」

cha0064

したいですか？ しようがないですね……ううむ

cha0065 ๖๘๑๙

い。そうそう！ 上手ですよ」 「

cha0066 ハベリト

「せねー、おマハロですょ。汚いおちんぽでも入りちゃう、ぬれぬれで熱々の、女の穴
です……入れたいですが？ クスクス……。ホント、ショタがない人です」

cha0067 ハベリト

「……あんい……ん、んんう、んはい……その調子ですょ……あん、むへ……あ
なたはいのち、お尻の穴なのおこりますよ」

cha0068 ハベリト

「むへへ、仲良くして貰だせよ。ん、んい、はあ……んい。おマハロもト
ナルも、おちんぽで埋あいつやこおしたよお……」

cha0069 ハベリト

「あい、はあ……んい……お腹の中が、ふか回せば……チクハズク……あ
ん、んい」

cha0070 ハベリト

「ふふ、口を口に当たるのですか？ ふふ……、ヒヒですむ……んい、あむ…
…むふふい……あはい、何ですか？ ね、んはあ……チンカス一杯でお口の中トロシトロ
です……あむ、ふふ……ふふい……ふふ……ふふ……」

cha0071 ハベリト

「ほくー、んい……めめい、あなためめいか？ ハーん……あなたとあなたは手で我
慢して貰だせよ。んい、あむ……おおおおおおおおおおおおおおおおおおおおおおおおおお
おお
おおお
おおお
おお
おお
おおおおおおおおおおおおおおおおおおおおおおおおおおおおおおおおおおおおおおお
おおおおおおおおおおおおおおおおおおおおおおおおおおおおおおおおおおおおおおお
おおおおおおおおおおおおおおおおおおおおおおおおおおおおおおおおおおおおおお
おおおおおおおおおおおおおおおおおおおおおおおおおおおおおおおおおおおおおお
おおおおおおおおおおおおおおおおおおおおおおおおおおおおおおおおおおおおお
おおおおおおおおおおおおおおおおおおおおおおおおおおおおおおおおおおおおお
おおおおおおおおおおおおおおおおおおおおおおおおおおおおおおおおおおおお
おおおおおおおおおおおおおおおおおおおおおおおおおおおおおおおおおおおお
おおおおおおおおおおおおおおおおおおおおおおおおおおおおおおおおおおお
おおおおおおおおおおおおおおおおおおおおおおおおおおおおおおおおおおお
おおおおおおおおおおおおおおおおおおおおおおおおおおおおおおおおおお
おおおおおおおおおおおおおおおおおおおおおおおおおおおおおおおおお
おおおおおおおおおおおおおおおおおおおおおおおおおおおおおおおお
おおおおおおおおおおおおおおおおおおおおおおおおおおおおおお
おおおおおおおおおおおおおおおおおおおおおおおおおおおお
おおおおおおおおおおおおおおおおおおおおおおおおおお
おおおおおおおおおおおおおおおおおおおおおおおお
おおおおおおおおおおおおおおおおおおおおおお
おおおおおおおおおおおおおおおおおおおお
おおおおおおおおおおおおおおおおおおお
おおおおおおおおおおおおおおおおお
おおおおおおおおおおおおおおおお
おおおおおおおおおおおおおおお
おおおおおおおおおおおおおお
おおおおおおおおおおおおお
おおおおおおおおおおおお
おおおおおおおおおおお
おおおおおおおおおお
おおおおおおおおお
おおおおおおおお
おおおおおおお
おおおおおお
おおおおお
おおおお
おおお
おお
お

cha0072 ハベリト

「周りの人は大人しくおちんぽ握りしめて、私をオカズにオナリードもして貰だせ
いね……あむ。じゅぱ、じゅぱ……んぐ、んぐ……」

cha0073 フルマー

と頑張つてください。ほら、動き、早くなりますよ……？ ああむ……んぱく、じゅる
……じゅぱぱーーんはあ、あんり、んぱく！」

cha0074 ๖๘๑๑

cha0075 ๖๘๑๙

cha0076 ๖๘๑๑

cha0077

cha0078 ๖๘๑๑

「ふあつ、あああああ……ひ、あああ……身体中……オス汁まみれ……ですう……！
はあつ……あああ……はあああ……」

cha0079

「みなさん、んんっ、ふう……満足できましたか……？　また明日来ます。……皆さん
がちゃんといい子にしていて、私の気が向けばの話ですけどね。……つづく」

cha0080 ੴ ਖੁਲ੍ਹ

「ふう……皆さん射精したらいさと帰りましたね……ああ、今田も全身ドロドロです。グラグラするくらい濃厚なオスの匂いですね……」

cha0081 ハベニト

「わねでも……満足でもしてしません……」なんに沢山の快樂を集めても、全然満たされません……。あい、『主人様……』「いや、主人様……」

cha0082 ハベニト

「私、ですか……? 私は、『主人様に相手をして貰えないのや、他の男性のものや快樂を貰つていました」

cha0083 ハベニト

「でも……身体も、心も、『主人様でないと満足してられないのです……ただひとり、ただ1本のおちんぽだけが欲しいのです……』」

cha0084 ハベニト

「……あの……」んな路地裏で、『主人様に当つたるよつぱり』したのに、なにも言わないとですか?」

cha0085 ハベニト

「私が満たされない身体を……」んなもん持て余すのまぢ……見透されていた……のですね。ああい、なんといつ……私は、手のひらの上で睡つていたに過ぎないなんてい……」

cha0086 ハベニト

「お願ひしますや……』主人様。不出来な私に施しをくだれ……ん、あああい……奥まで、ズドーハル……おかしたあ……」

cha0087 ハベニト

「ああい……幸せが身体を突き抜けて……、いやです……おがすりと欲しかつたんですか……」

cha0088 ハベニト

「あらい、うんうん……。やつです……』んなドスケベ変態女、『主人様でしか満足できません……あは、はあん……んう……。おちんぽだけあれば……あい、ああい……」

cha0090

…………あああっ、ひあああっ…………」

cha0091 ジヌニア

れてつ、ゞ主人様だけに満たされるつ……あんつ！ ひあんつ、ふあつ、あん

✓

卷之三

「……………ほん……………感じで嬉しそうな顔をして……そんなのぢや、主人様にしてもらいたい……」

卷之二

「ひんこ！ あ……おしり 叩いたら……くひいん！ 気持ちいい、お尻がシ
ンジン感じちゃいますうう、んくう、あんん、あひいいんう……」

4

cha0102 2/2/17

cha0103 ヴィニア

「あああああつ！ ああ？、ああ？、イッてるのにいいいつ！ まだ、あつ、ああつ、まだ、あつ、ああつ、ああつ、ああつ！」

卷之二

「ああ、二三ノ林を いってください たして くれるの、 まあ、 お出し
て、 なんうつー、 もうつ、 まだ、 ふああー、 がまんつ、 ぐううー、 はやく、 はやく
つー、 はやくつー、 ほしうー、 ほしうー！」

cha0107 ジニア

「はあ、はあ、はあ、イク、ふああああああんんん！」

cha0108

「はあー、はあー、はあー、はあー、あー、ぐうー、はあー、はあー、

cha0109 ๖๘๑๗

「はあ……ふう……あ、頭……撫でて……」主人様……ふう……んつ、ふあ……ああ……優しくて……強くて……気持ちいい、私の、『』主人様……」

「もうどう主人様に満足してもらえるために……あふ、頑張ります……」

cha0111 ๖๘

「裏通り……今度ふたりでイキませんか……？　うふふ、以外でしたか……？」主人様に愛されながらの精液シャワー、気持ちいいのでしようね……楽しみ、です……！」

cha0108 ハイシャ

「ねー……ねーねーーー！ 鍛錬が終わったら市場の入口でいたのは誰よお～…

…」

cha0112 ハスニア

「……まだ市場の入口に着いて5分も経っておやんよ」

cha0109 ハイシャ

「やあねー、たまにはお昼一緒に食べよって誘ったのはヤバじやない。今日は鍛錬でよく動いたからお腹、シロくロクロクなのよお～……」

cha0113 ハスニア

「」主人様にお仕事を頑張ってこねー、褒められたのがよほよほ嬉しかったんですか？

「やあ、ハイシャも可愛いくらいがあつあつだ」

cha0114 ハスニア

「な、な、なんやその事をハスニアが……ま、ああ、わよひよした心境の変化つて、いつの～……私の行動全てが！」主人様に繋がつて分かつたやつたがら……ね」

cha0111 ハイシャ

「へへへ、なんだか照れちやうねねへ。それだけ！」主人様が素敵な方なんだものねえ、良いふ題こあわよ。」ハハハハイシャも」

「

cha0115 ハスニア

「へへへ、それはあちがいありません。あ、ヤラが来ましたよ」

cha0112 ハイシャ

「セラあ～おそ～ー」

cha0115 やハ

「やだらつむが」なんね。色々してたの遅くなつたやつたわ」

cha0116 ハベリト

「あひ、ウイルは来なかつたんですか~」

cha0116 ハベリト

「ええ。忙しくて手を離せないからね。一緒に来られたのに少し手伝つてたんだけ
で、終わらなそつだつたから3人で行つてもいい」

cha0113 ハイシャ

「あれじやあしようがないねえ~。あひだかよいん食べひがねの持つてこつてあげ
ましゅ」

cha0117 ハベリト

「えへへ。ありがとア インヤ」

cha0114 ハイシャ

「はあ~、お腹すいたわあ~。今田はたへせん食べねわよお~」

cha0001 ハベリト (M0B)

「お肉屋さん特製!! 美味しいソーセージ、ただ今茹で上がりました~」

cha0115 ハイシャ

「ソーセージ!!~」

cha0118 ハベリト

「首がむかそつなくつこ耳い反応だつたわね……」

cha0002 ハベリト (M0B)

「あ、職士団の惣さん~。茹でたてをおひといかがですかあ~~」

cha0116 ハイシャ

「おひいの頂くわあ~。」の特製ソーセージ美味しいのよお~……やすすめはソーセ
ージをパンに挟んで、大きへ口を開いてあおあ~いふ食べる食べ方~」

cha0119 ハ・ハ

「くわー、変わった食べ方をするのね」

cha0117 ハ・ハ・ハ

「嘘くわんわんくわんわん、 行商人が」の食べ方を持ち込んだらしがわんわん」

cha0118 ハ・ハ・ハ

「お肉に関する知識だけは常人離れしてますよね……えいがくはそんな情報を仕入れてくれます……」

cha0118 ハ・ハ・ハ

「ハ・ハ・ハの教えられるお肉無しでしょー。 つややく」

cha0003 ハ・ハ (20回)

「ハ・ハのハーベースは強い男性の象徴を象っていて、女性の幸せや繁栄を願って作られて いるんだよ。 おの方クローズ様の希望がいろんな形で隠れてるお彼に立つなんて、素敵 ですかー」

48

cha0119 ハ・ハ・ハ

「あの方は最近いろんな事をやがてこますかね。 あいりんのお店からいきましたが、 たいやすよ」

cha0004 ハ・ハ (20回)

「あの……、クローズ様にお会いしたが、 おだよかにご好意こころがけを頂戴いたしました」

……

cha0120 ハ・ハ・ハ

「ハ・ハ・ハお買つたなー、 私ね。 も、 あいりんのハ・ハ・ハ食べましやー」

cha0119 ハ・ハ・ハ

「ハ・ハ・ハお買つたなー、 私ね。 も、 あいりんのハ・ハ・ハ食べましやー」

// 【収録メモ】編集時に間にあけてください。

cha0119 ハ・ハ・ハ

「ハ・ハ・ハ美味しそうねー」

cha0121 やハ

「おもながい中身を開けるなんてお行儀が悪いわよ」

cha0120 ハヤシヤ

「だいたいやー、ハの特製ソーセージ、サンドイッチ主人様のおかんばみたいだものねー」

cha0121 ハベリト

「お、ホントやな、ハ主人様のおかんばい風ーー。女性のためのソーセージ、ハ

てここのが！」主人様のこへて素敵です」

cha0122 やハ

「恐縮でー、わぬいん纏つたてのに勇氣がこぬねえ」

cha0121 ハヤシヤ

「口こいせこに頬張いたら、ミルク一ぱぱー泡が吹き出しつづけやなーかしら……

ああ、わべ我慢出来ないわあ。あーあー……おぐおぐ……えへへへー。やうひハハー。」

cha0122 ハベリト

「ハヤシヤ、わべ食ぐてこのんどうか……ドヤ、私ゆ」

cha0122 ハヤシヤ

「ええへへー。濃いお汁が口の中こいせこと……せあ……美味しじねあ～……」

cha0123 やハ

「ハヤシヤ、醤油方よ。醤油方……ん、んー。じゅ味ば、なみせぬ。」れば美味しい

ね」

cha0123 ハベリト

「香辛料が多めで、キリッとした味です。ああ、味でハ主人様を感じのれま

す……」

cha0124 ハベリト

「あ、見て。」れを貰ったお店、列がでわしてね」

cha0124 ハベリト

「ハ主人様の手掛けたお店はだいたいの醤油だよ。商店街の、料亭の耳へ…

…ご主人様の功績は町のいたる所にあります」

cha0125 4/11

「純粹に慕っている人も多いみたいだしね」

cha0123 アインシャ

「んむう……なんだか気に入らないわう……」

300 ヴィニア

「……………」（「……………」）です。

「なによおセラ。さつすが既婚者は余裕ね」

choice ジベニア

「お見せかけて、強がりござつたのでして」

「う、うぬるわねつ！」

あ
」

卷之三

「ホント、なんでだつたかしら……もう覚えてないわ」

cha0127 ジメニア

「そういうえば今度功績を讃えて、『主人様の銅像が建立される』っていう話もあるみたいですよ?」

cha0126 アイシヤ

本買って来るといろからねえ」

cha0129 ヤハ

「あ、あいつ。私も行へねー」

cha0128 ハルヒト

「ねえあやむこーあす」

cha0129 ハベリト

「みんなも、本件の状況を整理しまやよ。……おや発端は、主人様のエッチがとても良い、という事がアイシャの口から一部の因襲に漏れた、で間違いないですね」

cha0127 ハマシャ

「心うなのよや……ついがりしてたわ……」

cha0130 ハベリト

「や、」主人様に抱かれる、女としての血性を得ぬ、が出来ぬ、なんて噂が戦士団に蔓延。抱かれた子が大挙して相談に来てくる、ハ」

cha0130 ハハ

「ペロースボットレジやないんだから、」利益追求のなんてなつの?……」

cha0131 ハベリト

「ハーハーの騒動が、」主人様の耳に入つて、私達に品定めをしてみれ、と仰つたわけですね」

cha0131 ハハ

「人を見る皿を養う、機会だ、ハリヤリヤシト……あれ、絶対楽しそうね」

cha0128 ハイシャ

「なんやハ」主人様を取り合つ相手を、自分達で選抜しなきやいけないのよおおへへへー。」

cha0132 ハハ

「や、」もあ……」んな視点で人を見る事なんてないから、人の上に立つ者としていい鍛錬になりそうだね」

cha0132 ハベリト

「や、」が田長はやる気ですよアイシャ。腹を括つましよハ」

cha0129 ハマシャ

「や、」が無くなあいー。」

cha0133 シベリト

「ルーハル、その調子です」

cha0133 やハ

「われしや決定ね。特別鍛錬部屋で、壁虎品評会^{ハセイ}」

cha0130 アマシヤ

「ダ――。」

// 【収録メモ】数秒間を空けてください。

cha0005 ハリ (ミオロ)

「因縁。準備が整いました」

cha0034 キハ

「ハリ、おつづく。あなたが三分の準備を」

cha0006 ハリ (ミオロ)

「はる、今日も、やの……おへし^{ハシ}ねがんしおや。 どうい……のれせえー。」

cha0131 ハヤシヤ

「あひ、アリちゃん真っ赤な顔をして走っていましたがね」

cha0134 ハリト

「最初の特別鍛錬を受けたメンバーは、少し間が空きましたがね」

cha0132 ハヤシヤ

「ああ、私達を待たせなこのねべ……なん^{ハシ}て可憐^{ハシ}子達がしらぬへ」

cha0135 ハリト

「随分と参加者が増えましたね。壁一面全部お尻です……」

cha0135 ハリト

「薬は使ったのか？」

cha0136 ハリト

「わらわの。先に酔いつ、飲んでおひいておあ。此のまへんが、全員、おまへい」

「わらわの。おまへい」

cha0133 アイシャ
「ホカホカに暖まつていそうねえ。お尻もむじむじしてんし……」つう、見てるだけで、たまらないわあ」

cha0134 アイシャ
「や」「あ～ちゅいんがひでえ～。今日は～いもん趣向を変えて双頭ぐ～バンちゃんは使
わないわあ～。我が愛しき猛りよ！ 女を穿つ淫柱となりて舞い降りよ！ そお～～れ
え～～！」

「な、何!? やだ、男の人が股間に生えてきたわよー!」

cha0137 ジスニア 「ハ、これは……」主人様のおちんぽ……」

「正解いー。男の人の逮捕かよを知のやうして、名器の発掘なんて不可能いー。なの
で、わみわみこと、ね」

「アイシヤ、こんな変態召喚魔法まで覚えるなんて……」

「ふふふ、やだあ。召喚魔法じゃないわ、ただの模倣魔法よお~」

「変態は否定しないのね……まあいいわ。よし、行くぞ！ 突撃いつ！」

「突撃!!~! もぐ、もぐ、ハジのモグモグと可愛いおじは……」

cha0006 ハイオナ (M0B) 「あ、ほん、アイシヤさん、お願ひおまか……」

cha0138 ハイシヤ

「へへへ、ハイオナちゃんの鍛錬の成果、ちゃんと出ているか確かめておたるねあ……
ん、んい……おまか入るわ、こんな感覚なのねべへ……あは、これは良いわあ
っー」

cha0007 ハイオナ (M0B) 「はあああん、熱いのが入っても……んん、作り物とは全然……あんいー」

cha0139 ハイシヤ

「へい……へい……、はあい、あまのわいいつぶ縛ぬせかで……んい、じじ感じよお
ー、あんいー、擦り取られひー、トトトトト感じなのねえーあんいー」

cha0140 ハイシヤ

「ハイオナちゃんの、あまへー、おマハロのうねつが、んい……おまんぱを、んう
う、ぐにゅぐにゅ撻ね回して……んへー……ああー、や！」おハイオナちゃん
えぐわわわわ」

cha0138 ハシリト

「アイシヤはハイオナを随分お気に入りなようですね。じゃあ私は」の肉付きの良いお
尻にしみじょつか。ハシチなお尻のお名前は何ですか？」

cha0001 ハジーナ (M0B) 「あ、ハジーナと申します……あの、ペチペチとお尻を叩かなくど、べたやー……」

cha0139 ハシリト

「お、手触りを確認しているのです。うん、肉付きが良くて弾力もある。良いお尻です
よ」

cha0002 ハジーナ (M0B) 「あ、ありますわ」おまか……そんなに私のお尻良いですか……？」

cha0140 ハベリト

「ねいわらお尻は初めてお相手をしますが、外面は申し分ないですね。女性のしゃべり
のと撫で回していたふくらみですが、やつれ行かないのと、内面の方も確かめています
すよ」

cha0141 ハベリト

「えやー……キツナギアヌのふくらみした膣内が絡みついで、んん……背筋がゾクゾクし
てしおこまわ……」

cha0142 ハベリト

「ふああああい、ふうい、随分と余裕があるおおえりです……あんい。なんだか悔しい
のでクリトリスも弄りてあげましょー」

cha0143 ハベリト

「ふうい……はい、今度はじいふうと、でもしきり締付け、いれは壊りません…
…ああい… 背筋にジコジコついて、はあんい！ 電気が流れるとつたひ、んんん！

56

cha0144 ハベリト

「わおど、ううんい……おちんちの根本から先いままでザワザワ…はあんい！ 絡み
のこり……ふういー」

cha0140 ハベリト

「ハベリト、レジーナにやりたいのはなこじやない。そんなどす」こすなのかこじ……
「やなこじで、私も早々鍛錬をする子を選んであげなへや……」

cha0001 ハーネ (20回) 「おのいー、団長ー、私をー、私をお願いしまーー」

cha0141 ハベリト

「ふういふういだのここお尻だわ……お名前は？」

cha0002 ハリー (M〇B) 「ハリーが話します！ 団長に憧れて戦士団に入りました！ 団長の勇姿に、きやん
（一 なぜい、お尻を叩い——）

「聞いてもいない」口をキヤンキヤンと鳴らすお尻、相当キツくて嫌な気がする。やダメだわ……狙いを定めて、一気に攻め込むぞー。ふうんー。んはあー。キツくて生意氣なおマンコねー。」

cha0144 ۴۱۱

cha0145 4/11

「もうひと自ら腰を押し付けてっ！ 快感を増幅させてみろっ！ ふんっ！ ああっ、んうう……そうだ！ やれば出来るじゃないか！ 私に鍛錬してほしかったのなら、いいといいの見せるんだ！ くうい、あんっ！ ふんっ！」

cha0145

「はあっ、みんないつもと違つから、とても乱れます、んぐうう、こんな快感
の、長くもたな、あああんっ！ はあ、あうだめっ！ もたないですうっ！」

cha0146 4/11

んんんんっ！」

cha0141 11/14

「んくう、セラも全然、あああっ！ 余裕ない、でしょおっ！ はあんっ！」

cha0147 4/11

「だつてえつ！ はんつ、んんつ、べうつ……ふああい！ おちんぱが気持ちよくな
るのよおおいー！」

cha0142

「はあっ！ ああっ、だめっ、私もうだめっ！ フイオナちゃん気持ちよすぎでえっ！ ああっ、ああんっ！ んっ、んんんんっ、おちんぽ反り返つて……っ！ 射精なお？ これが射精しそうな感覚なのねえっ！」

cha0146 二八

「ああんっ！ あっ、あんんっ、私も、もうダメですっ！ ああんっ、こんなむつちや
おマンコ、耐えられ、な、いいいんんっ！ はああああんっ！ 射精っ！ 射精しちゃ
ううう！」

၁၀၁

ch0149 ペラ

「はあ……はあ……んんつ、ふああ……すゞ、かつたわ……それに射精の感覺、私ちよ
つと好きかも……あふ……」

cha0147

「分かります。んつ、びゅるびゅる出でる感覺、んふう……あんんつ、なんというか、充足感がすごいです。ああ……はあん……おちんぽでのセックスがこんなに、んつ、あふ……いいなんて……」

cha0143 ハヤハヤ

ね」

cha0150 ヤハ

「私達も、まだまだ鍛錬が足りないね……。」「…………。よし、次行くね……。

「一。」

cha0144 ハヤシヤ

「えふ……、ハリちゃんがヤハのハルお姉ちかねよお~。」

cha0151 ヤハ

「あい……わ、分かいつぬね……。」そつだアリ、あなたとハイオナは仲良しだいたわね。今日は特別にふたり一緒に握手になつてあげるわ。…………わあ、みんな鍛錬が良いか、申告なや~」

cha0007 ハリ (モノ)

「ああい、はこい……団長のおねいさんで、私とハイオナのおマンコを揺れ回して、ハ
だやここ……！」

cha0152 ヤハ

「ふふ。では、アリが先鋒だ。……では鍛錬を始めるハ~。ハイオナも休ませはせん

ハ~。」

// 【収録メモ】次の文章のみ。モノローグでお願いします。

cha0153 ヤハ

「(モノ) ハヤシヤ、すぐこのお尻に挿入し、私達は心をくもで壁尻女達を堪能してこ~

——」

cha0154 ヤハ

「さあ……はあ……えへ~、はあ……たぶんね、金員ね……」

cha0145 ハヤハヤ

「えあ……わ、やつなのね……。途中かくやんなの、考えてなかつたわ……」

「えあ……えい、ああ……みいはつ名器選びだる、あん……ハハやなへいわや……。

cha0155 やハ

「実は私もかなり記憶が怪しくね……ひたすら夢中になつてセックストしていたもの…
…」

cha0148 ハハニト

「ねむんばの快感はすば」かいたですから、夢中にならないほうがおかしいです。あ、見
てください……夜が明けます……」

cha0156 やハ

「ああ、ホントだ……なんて清々しい朝……枯れそなほじ射精したば、世界も違つて
見えるのかしら。達成感もひとしねね」

cha0146 ハヤシヤ

「ねむんばやんにやんにやで満足がだわ、うわわ」

cha0149 ハハニト

「団員の子たちも、精液と愛液をおまんこから出るこで満足やつやよ」

cha0147 ハヤシヤ

「朝日は暖かれてみんなキラキラしてねあ～……かよい幻想的に見えるね」

cha0150 ハハニト

「やはり、主人様の声ついひば、何でも正しいのやね……やつかり私達が愉しんで
しまひト……」

cha0157 ハハ

「ふふ、でも、だからこの子がどんな悦ばせ方をしてくれるか、今なら分かること」

cha0148 ハヤシヤ

「ふふ、自分が何言ってるか分かってる?」

cha0158 ハハ

「団員たちの事が手に取るように分かる、っていう話でしょ? 自分たちで直接、団員
たちと肌を重ねる重要性を思い知ったわ」

cha0151 ハヽヽヽ

「あ、やつのおかげで僕がピクึいてしまったよ。おだやかな感じか……？ 私はもう無理

であります……」

cha0149 ハヽヽ

「今度は魔力を空へと放つ。おへたるよ。おへたく魔力が切れて、おかん迷路へないやつ

かみ」

cha0159 ハヽヽ

「おれは戻るだね……。では今度、直接魔力を空へと放つ。その時にまた」の魔

法をお願いするね」

cha0150 ハヽヽ

「ハヽヽ、傭ひとくれば、このドムダルーおけのわあ～」

cha0160 ハヽヽ

「ハヽヽの魔力の量十四か安泰だ……やあ、おへんかいふ悪くないやつだよ！」

【収録メモ】以下の文章のみ、モノローグでお願いします。

cha0161 セラ 「(M) それから私達は、同時期に妊娠、出産をし、育児に追われる毎日を送つてい
る。そして今日、久しぶりに3人で集まり、赤ちゃんをお披露目し合う会を開いたのだ
つた——」

da0162 セハ
「ねハジスニアとアイシシャは来てるかしら……。ふたりはどんなママになつていらぬのか

۱۵۰

「ごめんね、遅くなっ

【収録メモ】以下指定があるまで全員ウイスパーボイスでお願いします。

da0151 アイシャ
「いい。今やつとべじちゃんが寝たところだから、静かにい」

cha0164 4/11

「くそ、ちやんの夜泣きに随分やられちゃつててみたいや

cha0165 47

「あー、そつなのおー？ そんな風に見えないけどなー。大人しく抱いはれて、いい

子じやなあ〜い」

【収録メモ】全員ウイスパーボイスここまで。

cha0154 ۱۷۰۴

「い子ねえへ。ママはいいにじるわよおへへ。ほひほり、泣かないで」

cha0166 ۴۱

やつた

卷二十一

cha0152 二八二

「ん……あ、セラ来てましたか。あら、起きてしまつたんですね。よしよし、抱っこし

てあけましよう

すいたのかしら」「

cha0153 二八二八

「そうですね。そろそろおっぱいの時間です」

cha0155 アイシヤ

「へやが、まつててねえ。今ちゅせちゅせさせてあげまぢゅがらねー」

【収録メモ】編集時、少し間を空けてください。

cha0168 4/11

「ああ、すい、吸い付いてくる……ああ、美味しそうに飲んでるわね……」「我ら子ども、夢中になつて、おつぱい、次しどら二つ時間……」

cha0154 ヴィニア

「私もホッと気が抜けて、よく寝ちゃいます」

cha0169 4/11

「寝不足になりがちだし、ついウトウトしちゃうわよね。……でも一人とも元気そうでよかつたわ。赤ちゃんにもやつと会う」とが出来たし」

cha0155 ハベリト

「ヤリの赤ちゃんは……ヤリ似ですね。おはや生き写しレベルです」

cha0157 ハイシャ

「ほんとセラにせいへつねえ……。UILと「主人様、おひかの子なのね。」

cha0156 ハベリト

「久々の再会でセラに触れますが……」

cha0158 ハイシャ

「つめめ、それはね——」

// 【収録メモ】編集時、間を空ける

// 【収録メモ】次の文章のみ。モノローグでお願いします。

cha0170 ハト

「(M) お互いの赤ちゃんを見せ合いで、しばらへこいからの」。少しほきを抜いた方がいいとアドバイスしてくれた夫、ウイルに子供を預けた私は、同じようにウイルに子供を託したジスニアとアイシャと合流して、町を歩く

cha0171 ハト

「わいわいひだね、うーん、今日はがんばるねーーー。」

cha0157 ハベリト

「はー、気合いをこめてのぞみましょ。こうなけで、いつわより強力なおくり、用意しておまがした」

cha0159 ハイシャ

「わあねー、それって、体に負担とかかけない?」

cha0158 ハベリト

「大丈夫です、負担なく、楽しめるおへやつに仕上げましたから」

cha0172 ハト

「わわがはハベリトね。たのしみだね」

cha0159 ハベリト

「ハベ、子供が亡くなつた子供を、たぶんだよんこして聴ねるーがー。」

cha0160 ハベリヤ

「ハベ、あの人……」^ナ人様なり期待に応へておるが……やう、こへぬがー。」

cha0160 ハベリト

「せー。」

cha0173 ハベリ

「ハベー。」

【収録メモ】次の文章のみ。モノローグでお願いします。

cha0174 ハベリ
「(2) 私達は、毒やな口々を送つてござ。今がどうか、ヤシハリだらうか……。」